



光合成促進機 モニター農家のハウス全景

特集

LPガス使用による 光合成促進機の取り組みについて

資材部(エネルギー)



「オトコエシ」

(オミナエシ科)

いわての 野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

オミナエシと、よく似ている。だが、こちらは全体ががっしりとして男っぽい。したがって、オトコエシ(男郎花)。

一般に、オミナエシに比べて見劣りがすると言われるオトコエシだが、なかなかどうして、さっぱりとした風情が捨てがたい。

遠野では、この花の純白ではない白色を、稗と米を混ぜて炊いた飯にたとえ、「ヘエコメバナ」と呼んでいる。

ちなみにオミナエシは「アワバナ」(粟花)。これもまた、対になった命名である。

ところでこの草の種子には、ちよつど野球帽でもかぶったように、翼がついている。

風の力を利用して、できるだけ遠くへ種子を飛ばそうという作戦だ。

どなたところに飛ばされるのかも分からないのに、オトコエシは種子のころから男っぽく、冒険が好きらしい。

参考資料：澤口たまみ著「岩手の野草百科」(岩手日報社 平成18年4月20日 第7版発行)より

純情産地発 **KLARA** vol.833 2018 12

タイトルのKlara(クララ)は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、スペイン語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

contents

季節のエッセー いわたの野草	02	銀河食堂info	07
特集 LPガス使用による光合成促進機の取り組みについて	03	報告!出向く活動班	08
純情産地いわて30周年記念企画	06	のん活動記	09
消費地だより	07	純情人	09
		ニュースワイドアングル	10



本県のJ Aプロパンガス事業（以下LPガス）では平成29年度から、LPガスを燃焼させ発生したCO₂を農作物の光合成促進に利用し、所得向上の一助となるような営農支援の取り組みを実施しています。

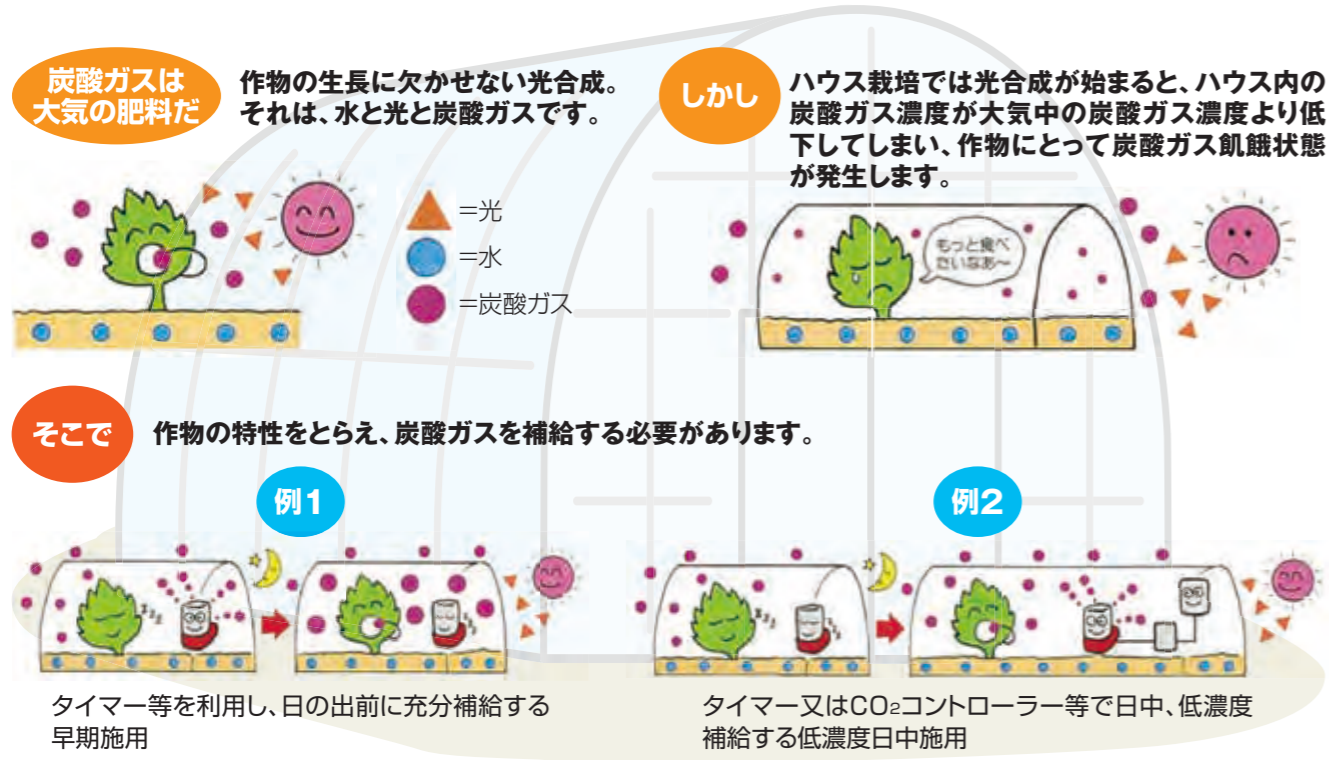
1. LPガス使用による光合成促進機の実証と今後の取り組みについて

岩手県J A本会では、光合成促進機研究会を立ち上げ、効率的な施用方法の周知等、農家へのサポートに取り組んでおります。

また、本会では、平成29年度より光合成促進機貸出要領を制定しました。この要領では、モニターとして収量・糖度等のデータを提供していただくことを条件に、最大2年間、利用者に光合成促進機を貸し出します（貸出には一定の条件があります）。

一関市花泉のいちご栽培農家で、同要領を活用した生産を開始しました。CO₂発生装置を暖房機（重油）の吸気口に向けて設置し、ダクトで株元全体にいきたるようにし、CO₂コントローラーを発生装置と暖房機に連動することによって、CO₂濃度と温度の設定について効果的な施用を実現することができました。

その結果、平成29年度導入後は、いちごの大き比率と収量を増やすことができました。また、燃料コストは重油代+ガス代となりましたが、前年の重油代と同等の燃料コストで支払いが可能となりました。



2. 今後の取り組み

光合成促進機研究会は平成31年度以降も継続して活動を強化します。また、モニターより得られたデータを元に、ハウス内の農作物がCO₂を効

モニター農家の設置状況

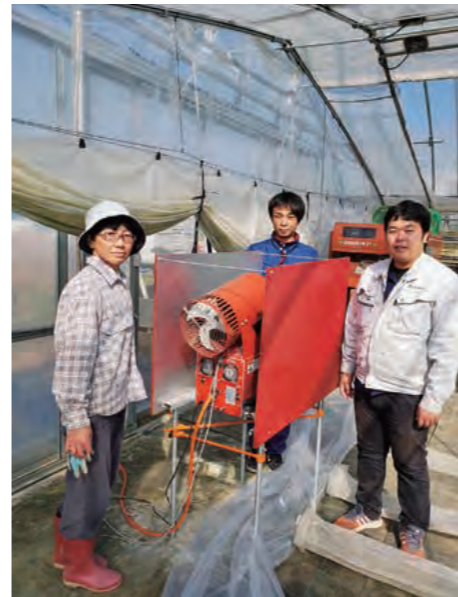


光合成促進機研究会

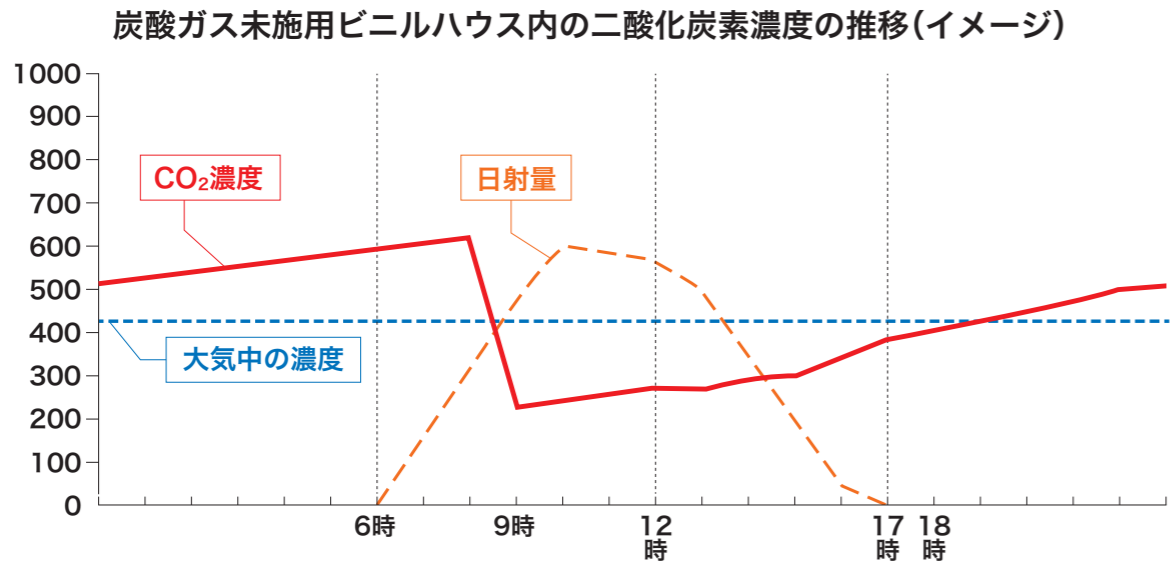
CO₂コントローラー



光合成促進機と暖房機器



光合成促進機モニター農家(左)とJA職員



最後に

従来、LPガス事業は組合員のライフラインとして捉えられ、組合員の生活支援・利便性向上に取り組んできました。

今後は本取り組みを含め、現状LPガス供給を通じて、農家の所得向上に向けた取り組みを進めてまいります。

また、家庭用のLPガス供給に関しては、保安強化を進め、安心安全なLPガス供給を進めてまいります。「ふれあい訪問活動」にて、供給先の農家組合員のご自宅まで伺い、ガスに関する要望等やガス以外のJ A事業に関する要望についても話を伺い、組合員・J Aの繋がりを強化します。将来的には電力の供給も開始し、組合員宅や営農用ハウスへのトータルエネルギー提案ができるように整備を進めてまいります。



率よく施用するための環境制御(温度・湿度・CO₂濃度等)をデータ化し、研究会で共有して農家組合員への普及拡大に取り組めます。



就農して4年目の恵衣菜さん

支えたい、思いから

福島から夫の実家である荒谷果樹園に嫁ぎ、岩手に来ましたが、始めは保育士の仕事をしていたのですが、農作業をする夫や両親の姿を見ていたうちに、「支えたい」、「私も力になりたい」と思うようになり、「4年前に就農をしました。ちょうど30歳を迎えるということもきっかけの一つでした。今は夫や両親から農業について教わりながら、家族皆で果実を生産・販売しています。」

美味しいりんごを届けたい

りんごを中心に、さくらんぼ、ブルーベリーなどの果実を一年を通して栽培します。私の主な作業は枝拾い、花摘み、摘果、芽かき、果実の収穫などです。荒谷果樹園では、約20種類のりんごを取り扱っています。主な品種は「ふじ」。今がちょうど収穫期を迎えるころ（取材時：11月）で、今後は

純情産地いわて30周年記念企画
“純情産地いわて”を
支え・育む力を
インタビュー!!



あらや けえ な
荒谷 恵衣菜

荒谷果樹園 二戸市

今回は、二戸市の生産者 荒谷恵衣菜さんにインタビューしました。恵衣菜さんは、「荒谷果樹園」で夫・直大さんと共にりんご、さくらんぼ、ブルーベリーを栽培。2人のお子さんを育てながら果樹園と家庭を支えています。今企画初の女性生産者へのインタビューとして、気さくで明るい恵衣菜さんに、農業や家族への思いをお聞きました。

「はるか」の収穫になります。作業をしている時は、食べてくれる人のことを考えながら、美味しく育つように思いを込めています。採れた果実を地元の産直で販売することも私の重要な役目です。干しりんごや、杏の刻み漬けといった加工品も販売しているのですが、色々な形で美味しさをお届けできていると思います。この他に、地域の小学生の社会科見学や農家体験の受け入れも行い、多くの方に果実栽培の魅力を伝えていきます。

やりがいには常に

私が農作業をしていて大変なことは、収穫に適したりんごを見分けること。素早く見分けることが難しく、りんごのお尻の色を一つ一つ見て判断するため、時間がかかってしまいます。それでも、美味しいりんごを消費者に届けるため丁寧な作業するよう心がけます。じっくり時間をかけているからか、やりがいを常に感じながら作業することができていますね。特に、りんごに関して収穫期を迎えた時は、

「これまで無事に育ってくれたね」といつも感動します。実際に食べてくれる人やリピーターの方を見た時も、農業をしていて良かったと感じます。

農業と家庭を両立

農家出身ではないので、農業の知識や経験が全くない状態で農業を始めました。夫や両親に教えてもらって、全てが当たり前のことだと思いつて取り組んでいるので、知識がないことが逆に良かったのかもしれない。ただ、やはり男の人に比べると力がないので、手助けしたいと思って出来ないうちは、ハンデを感じてしまいます。その分、子育てや家事の面でしっかりと支えるようにして、家族の力になるようにしています。家では子どもたちのことを第一に考え、仕事



夫の直大さんと一緒に

二戸市のりんごを有名に

二戸市のりんごを「岩手のりんごと聞いたら二戸市」というイメージが持つ位有名にしたいです。二戸市は岩手県で一番昼夜の気温差が大きく、降水量が少ない地域。この気候が果樹栽培にとっても適しているのです。そのため、実の引き締まった糖度の高いりんごが生産されています。ぜひとも、この二戸市のりんごを多くの消費者に食べてもらいたいですね。二戸市は家族経営の農家が多く、私の様に嫁いできた女性の方もいます。同じような境遇の若い女性生産者と情報共有や交流を図って、二戸市を盛り上げていく場ができれば嬉しいですね。農業に対して大変そうないメージを持つ方が多いと思いますが、実際は楽しいことが沢山あるので、若い女性生産者ももっと増えてほしいですね。これからも日々勉強し、荒谷果樹園と家族を支えていこうと思います。



沢山実ったシナノゴールドを、一つ一つ丁寧に収穫

純情ブランド消費地の「今」をレポートします。

消費地販売部 発

消費地だより

「岩手県オリジナル品種の関西エリア確立に向けて」

30年産米がスタートし、関西の百貨店や量販店にも各産地の新米が並び始めました。各産地ブランド米の華やかな米袋を見ると、独自性あふれるデザインに思わず手に取ってしまう消費者も多いのではないのでしょうか。

さて、10月より本格的に産地から米の出荷が始まりました。東北農政局が10月31日に発表した10月15日現在における作柄概況では、岩手県の水稲の作柄は「平年並み」となりました。今年と比較的天候に恵まれましたが、8月の記録的猛暑や収穫期に上陸した台風など自然の脅威を痛感した年でもありました。

今年も岩手県オリジナル品種である「銀河のしずく」がデビューして3年目、「金色の風」が2年目になります。この数年各産地から高価格帯のブランド米が次々とデビューし、産地間競争がさらに激しくなっています。30年産においても、北陸の米どころ富山県で新ブランド「富富富」がデビューしました。富山では女優の「木村文乃さん」を起用し、富山米のPRをしています。この「米の戦国時代」ともいえる産地間競争を勝ち抜くためには、「プロモーション」活動が重要な力を握ります。本県では昨年に引き続き



き女優の「のんさん」が宣伝本部長に就任し、県内だけでなく首都圏、中京、関西でものんさん出演のCMを放送しています。「一粒のお米にはさまざまなストーリー」が込められている」をテーマに「のんさんの七変化」が見る人の心を奪います。特設サイトではメイキング映像を視聴することができますので、のんさんの楽しそうな撮影風景を是非ご覧ください。



10月29日には、大阪高島屋と京都高島屋にて「銀河のしずく」と「金色の風」の販売PRをおこないました。PR活動ではJA新いわて、JAいわて中央、岩手県と協力し2品種の食べ比べや店頭販売活動を行いました。多くの皆様がお越しください、2品種の違いを味わっていただきます。この経験を来場者が家族や友人、同僚にも伝えることで、本県産米をより多くの人に味わっていただくことに繋がればと思います。



消費地販売課 高橋 遼

消費地販売部には全国の米穀卸より岩手県産米取り扱いの問い合わせを多く頂いております。この期待に応えるためにも、生産者の皆様、各JA様が本会に安心して販売委託できる環境を我々が整えて、しっかりと全量販売していく所存です。是非とも集荷全量の出荷をお願いします。消費者ニーズを見極めながら、最新の情勢を産地へ情報伝達するのが我々の使命です。岩手県オリジナル品種を確固たるブランドへとするため、皆様のご協力をお願いします。

12月宴会鍋コース
メニューが登場!

銀河食堂 info



上から「鯛の杜氏鍋(酒粕仕立て)」、「豚肉のチーズチゲ鍋」、「海鮮寄せ鍋」
料理全6品(鍋含む)・飲み放題2時間付き：【通常飲み放題】4,000円(税込)
【プレミアム飲み放題】5,000円(税込)

いわて純情米の店「銀河食堂」にて、12月宴会鍋コースが始まります！
「鯛の杜氏鍋(酒粕仕立て)」、「豚肉のチーズチゲ鍋」、「海鮮寄せ鍋」の3種類。それぞれ料理全6品(鍋含む)と飲み放題2時間もついて、4,000円(税込)でのご提供になります。※プレミアム飲み放題の場合は5,000円(税込)。
鯛とお酒の上品な味わいが楽しめる「鯛の杜氏鍋(酒粕仕立て)」。辛さと旨さがやみつきになる「豚肉のチーズチゲ鍋」。海の幸をたっぷり味わえる「海鮮寄せ鍋」。どの鍋もボリューム満点の美味しさで、冬にぴったりな味わいです。
温かいものが恋しくなるこの季節。ぜひ、いわて純情米の店「銀河食堂」で身も心も温まりながら歓談のひと時をお楽しみください。
ご予約は、いわて純情米の店「銀河食堂」
019-601-5534まで。

■飲み放題：【通常コース】ビール・チューハイ・梅酒・日本酒・ハイボール・焼酎・ソフトドリンク
【プレミアムコース】通常飲み放題に加え、岩手の地酒・岩手の焼酎・岩手のワイン

報告!



活動班 出向



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
亀井 拓也

農事組合法人「きらりつぎまる」

今回はJA江刺管内で、大豆を中心に水稲、施設園芸に取組むオペレーター型営農組織の農事組合法人「きらりつぎまる」をご紹介します。

(1) 法人設立経緯

同法人は、奥州市江刺の玉崎・北部・高間ヶ丘3集落を区域として、平成24年開始の農用地基盤整備事業の進行に合わせて設立された「次丸大豆受託組合」を元に、平成27年4月に5名で設立されました。

同法人は、「次丸地区のきらり輝く景観が素晴らしく、持続可能なふるさとと

して維持したい」との願いをこめて命名されました。

(2) 作付品目及び作付面積

圃場整備対象面積81畝のうち41畝圃場整備対象外の5畝を集積し5部門に分けて取組を行っています。

平成30年度計画、売上50006千円
(29年度決算額45891千円)



きらりつぎまる集合写真

作付部門	作付面積(H30年度計画)	H29年度作付面積
水稲部門	16.4% (ひとめばれ14.0% 直播WCS 2.4%)	15%
大豆部門	27.0% (リュウホウ)	33.0%
牧草部門	2.8%	2.8%
園芸部門	22% (ハウストマト、りんか5.8% ひなた12.3% ワンダー3.9%)	22% (28年度から取組開始)
	9% (ほうれん草 秋冬 ハウス利用)	
	4% (その他葉物 秋冬 ハウス利用)	
	※ハウス4間×24間 2棟(633.6㎡)、4間×22.5間 2棟(594㎡)、3間×20間 1棟(198㎡)、2.5間×23間 4棟(759㎡)	
作業受託部門	※露地圃場(0.8haの有効活用を行う)	
	※ナノバブル導入(根圏に酸素供給) 2.5間×23間2棟、4間×22.5間1棟、4間×24間1棟	
	※点滴灌水 全棟	
	※ミスト発生装置(環境制御高温対策) 4間×24間1棟	
29年度並みで作業受託(5,011千円)		
※RC JA江刺玉里ライスセンター作業を受託。29年度実績379本のフレコン出荷		

純情産地いわて宣伝本部長「のん」 岩手県産米・果実をPR

10月29日(月) 「いわての美味しいお米新米フェア」
「いわて果実プレミアムスイーツフェア」

岩手県とJA全農いわては、10月29日(月)に、東京ミッドタウン日比谷で「いわての美味しいお米新米フェア」ならびに「いわて果実プレミアムスイーツフェア」を開催しました。このイベントは、首都圏における県産米および県産果実の認知度向上と、販路拡大を目的として行われました。

このフェアに、JA全農いわての純情産地いわて宣伝本部長を務める女優の「のん」さんが応援に駆け付け、純情産地いわての魅力を紹介しました。

のんさんはトークショーに登場し、岩手県の産地拡大知事、JA岩手県五連の久保憲雄会長、株山田屋本店の秋沢社長とともに、「県オリジナル水稲品種『金色の風』」「銀河のしずく」に懸ける思いのテーマのもと、県産米の魅力を紹介しました。のんさんは「金色の風」と「銀河のしずく」のおにぎりを試食し、「本当に美味しく幸せになります。『銀河のしずく』は甘くて



トークショーにて県産米をPRする、のんさんと産地知事

バランスの良い味で、『金色の風』は香りが良く、バクパク食べちゃいます。」とコメント。県産米の美味しさを改めてPRしました。

また、のんさんは「いわて果実プレミアムスイーツフェア」のゲストトークにも登場。首都圏に店を構えるパティシエシエフ特製の県産果実の美味しさを引き出したコラボスイーツを味わい、県産果実のPRをしました。

のんさんは、これから純情産地いわて宣伝本部長として、県産農畜産物を全国にPRしていきます。



豪華な衣装で登場した「いわて果実プレミアムスイーツフェア」



パティシエ特製のスイーツが会場に並びました

JA全農いわての 純情人

趣味・特技

趣味:ランニング、カパディ、漫画(特にカイジ)を読む、温泉巡り
タロット占いをすること、乃木坂46の曲を聴く・動画を見る
特技:バスケットボール、ボウリング、目印になれること

現在の担当業務

残留農薬検査の連絡対応、実績の取りまとめ、価格安定事業についての業務

これからどんな職員になってみたいか

身近にいる尊敬する先輩方のように、相手のニーズに、「最速で、最短で、真っ直ぐに、一直線に」対応できる職員になりたいです。

その他アピールしたいこと

住田町出身ということもあり、木工が得意です。中学時代は特設木工部にも所属し、農林水産大臣賞を受賞したことがあります。お子さんの夏休みの宿題でお困りでしたら、是非お声掛け下さい。よろしくお願いします!



園芸部 生産販売課
きくち たくや
菊池 拓哉さん

趣味・特技

趣味:音楽・映画鑑賞、散歩、温泉に行くこと
特技:アルペンスキー、テニス

現在の担当業務

主に市場窓口受付・精算業務、黒毛和牛繁殖雌牛預託事業・経理業務の補助を行っています。また、初生牛市場の際に現場へ出て牛の取扱いを学んでいます。

これからどんな職員になってみたいか

多くの方に信頼して頂ける職員になれるよう、日々の業務に一生懸命取り組んでいきたいです。また、様々な方々と接する機会が多い業務ですので自分から積極的にコミュニケーションを取れるよう努めていきたいです。

その他アピールしたいこと

幼いころから牛が好きでした。牛や畜産について多くを学び、吸収し、頼っていただけるような職員になれるよう頑張ります。小さい頃から身近に見てきた牛について詳しくなっていき畜産に貢献できるような職員になりたいです。



畜産酪農部 家畜市場課
ふじむら ありさ
藤村 有沙さん

(3) 構成員及び雇用
役員5名(組合長、副組合長、理事3名) パート8名
保育所、小学校食育の一環として体験農業に取組んでいます。

(4) 取組事項
圃場整備対象面積81畝のうち41畝圃場整備対象外の5畝を集積し5部門に分けて取組を行っています。

(5) 今後5〜10年のプラン
同法人は、平成29年度は50畝を、平成30年は46畝を受託としました。今後50畝を超える受託面積を経営し、各部門の事業を充実させて従事分量配当を出せる組織を目指していきます。また、世代交代を見据えて、人材不足・労働力解消に取り組み、社会保険の整った若年層が魅力を感じる組織にしたいと考えています。

(6) 現状の問題・課題
法人として園芸に取組んでいますが、費用対効果が出にくく、効率化を図り黒字化とすることが課題となっています。

改善には単収の増加が不可欠ですが、29年度はトマトのかわいよう病が発生して、10月/10月の収穫(目標16.0ト/10ア)となりませんでした。このため本年度はハウス内部でのかわいよう病の感染の拡大を防ぐため、各ハウスを数ブロックに分け収穫等をこまめに消毒、交換して管理する取組を行っています。これにより本年度は8月20日現在で単収7〜8トの収穫となっており、最終的には12ト/10ア程度となる見通しとなっています。



サツマイモ苗植え



大豆の収穫風景

(7) JAグループへの期待
現在JAを利用して運営していますが、経営環境、運営状況が変化すれば方針対応を考えなければなりません。JAには販売力の強化等により、所得の向上に寄与してほしいとの期待があり、また、資材については競争が激化していることから、ホームセンターに負けない価格の実現をしてほしいとの要望がありました。

大豆肥料について、肥料の価格押し下げのため肥料成分を検査してほしいとの要望があり、肥料推進課を中心として本年、大豆収穫後土壌診断を実施し、検討を行う予定となっております。

今後もサポート事業と訪問活動を通じて、ご要望等にお応えできるよう対応してまいります。



対処しています。

大豆ではブロックローテーションでの栽培に取組んでいますが、概ね大豆↓大豆↑米となっていて、圃場によっては大豆連作となっており、連作障害が発生しています。これについては、サポート事業の連作障害対策を利用して転炉石灰を施用して

純情産地いわての魅力PR

平成30年11月4日(日)

いわてみちのくフェア

11月4日(日)に神奈川県小田原市のスーパーヤオマサ・クイーンズマート店にて「いわてみちのくフェア」を実施し、抽選会や試食販売を行いました。

10時の開店では、本会の藤村副本部長・後藤畜産酪農部長・2018いわて純情むすめが、いわての花き(りんどう・小菊・スプレーカーネーション)を200名様にプレゼントし、和やかな雰囲気スタートを切りました。抽選会は、クイーンズマート店にて2,000円以上お買い上げの方を対象に実施。当選者には、いわて牛のステーキ・岩手県産乳製品・岩手県産米「ひとめぼれ」などを手渡しました。試食販売では、いわての野菜・お肉・牛乳・乳製品・お米をそれぞれ販売。試食コーナーにあるスタンプを全種類集めた方には飴をプレゼントし、家族連れも多かったため子どもを中心に多くの方に参加いただきました。

この他に、「純情産地いわて」の守り神「じゅんきんくん」の塗り絵コーナーや、JAいわて花巻と共に餅つきイベントを実施し、会場は大いに盛り上がりました。

今年で13年目となる「いわてみちのくフェア」。「普段から岩手県のお肉・お米・りんごなどを食べている」という声を多くお聞きすることができました。これからも消費地を始め、全国に「純情産地いわて」の魅力PRしてまいります。



先着200名様にいわての花きをプレゼント



JAいわて花巻による餅つきイベントの様子

優れた「いわて牛」が決定

平成30年10月20日(土)

第62回岩手県畜産共進会・第50回いわて牛産地和牛枝肉販売会

一般社団法人岩手県畜産協会は、平成30年10月20日(土)に、(株)いわちくで、「第62回岩手県畜産共進会」を開催しました。この共進会は、岩手県の家畜改良増殖を促進し、畜産農家相互の研鑽を図ることを目的に開催しています。これまで、9月14日(金)開催の馬の部を皮切りに、黒毛和種・ホルスタイン種・日本短角種の部を実施してきました。今回は、肉牛の部を開催し、去勢55頭と雌29頭の計84頭が出品されました。

この審査は、枝肉の重量やロース・バラ・皮下脂肪の厚みの格付けと、BMS(赤みの肉にどれだけ霜降りが入っているか)等を基に行われます。厳正な審査の結果、奥州市水沢の佐々木学(ささき まなぶ)さんの肉牛が名誉賞に選ばれました。審査終了後、全農岩手県本部主催の第50回いわて牛産地和牛枝肉販売会が開催され、現在の相場を上回る平均単価2,865円(税込)で取引されました。

本会の藤村明智副本部長は、「岩手県の優れた肉牛の品質を全国へお届けし、消費者に美味しいと言われるように、事業を展開してまいります。」と、いわて牛のさらなる飛躍に向けて決意を述べました。



名誉賞を獲得した、佐々木さん



セリの様子



編集
後記

12月を迎え、いよいよ本格的な冬の時期になりました。冬といえば炬燵で暖まりながら美味しいものを食べたくりますよね。そんな時におすすめなのが、りんご「はるか」で

す!たくさんの蜜と、ジューシーな甘さが特徴的な「はるか」。現在、JAタウン内の「いわて純情館」からも購入できます。美味しいものを食べて冬を楽しみましょう! (井戸川)

しわ豚おいしいね!学校給食に地元産の豚肉を

平成30年11月15日(木)

養豚専門部会 食育イベント

11月15日(木)に、JAいわて中央の養豚専門部会による食育イベントが紫波町立赤石小学校で行われました。

このイベントは、養豚に励む生産者の思いや、命の大切さを知ってもらうことを目的に実施。生産者との交流・地元産の豚肉「岩手しわ豚」の実食を通して、地域の子もたちが学んでいきます。平成8年から同部会が年1回、農協管内の学校給食に自分たちが育てた豚肉を無償提供し、交流を図ってきました。

この日の給食の献立は、麦ごはん・牛乳・さつま汁・ホッケの塩焼き・大根としわ豚のピリ辛炒め・ぶどうゼリー。この中で、「さつま汁」と「大根としわ豚のピリ辛炒め」の2品に養豚専門部会提供の豚肉が使用されました。この食育イベントで紫波町内の小学校11校・中学校3校の計14校に2,830食分の豚2頭分が提供されました。

赤石小学校には、生産者であるJAいわて中央 養豚専門部会の七木田一也部会長と阿部秀夫さん、紫波町給食センターおよび本会畜産統括課が訪問。児童らと一緒に給食を食べながら、地元産の豚肉や食材の美味しさを伝えました。「おいしい!」「もっと食べたい!」と喜び児童らは、生産者に熱心に質問を投げかけ、地元紫波町の養豚の知識を深めていました。



「豚の赤ちゃんの大きさは?」児童の質問に答える七木田部会長



阿部さんの話に笑顔を見せる児童

いわての美味しいをPR

平成30年10月25日(木)~10月30日(火)

ユニー岩手県フェア

県産農畜産物の主要な取引先「ユニー(株)」の総合スーパー、アピタ千代田橋店とアピタ名古屋空港店にて「岩手県フェア」が開催されました。このイベントは毎年、岩手県とユニー(株)が連携し、中京圏の消費者に県産農畜産物のPRをしてきました。

今年は、アピタ千代田橋店で10月25日(木)~10月28日(日)の4日間、アピタ名古屋空港店で30日(火)までの6日間に渡り岩手県フェアが開催され、米・畜産加工品・乳製品・水産加工品・銘菓の試食販売が行われました。

開催期間中の27日(土)には両店舗でセレモニーが行われ、先着100名の来場者に県オリジナル水稲品種「金色の風(1袋300g)」をプレゼント。週末のため家族連れが多く、多くの来場者が列を作りました。また、「金色の風」・「銀河のしずく」の試食では多くの方が「美味しい」とコメントし、大好評のフェアとなりました。



2018いわて純情むすめから「金色の風」をプレゼント

盛農パワー満載! 盛農祭

平成30年10月27日(土)、28日(日)

盛岡農業高校「盛農祭」

盛岡農業高校にて「盛農祭」が開催されました。盛農祭では、生徒が心を込めて大切に育てた農畜産物や加工品等を販売。毎年、開始時間前から行列ができるほどの人気ぶりです。他にも、各学科の研究展示や動物との触れ合い等も行われ、多くの来場者でにぎわいました。来場者からは「盛農生の作る農産物は美味しい」「毎年楽しみに来ている」という声が非常に多く、盛農パワーにあふれた2日間となりました。

また、JA全農いわては、盛農祭にて来場者対象の抽選会と「2018いわて純情むすめ」による「純情体操」の披露をしました。盛農とJA全農いわてのタイアップ企画は今年で4年目。今回は、各学科の展示を評価するアンケートと盛岡農業高校に関するクイズに回答すると、抽選会に参加できる企画を実施しました。2日間にわたり計418名の方が参加し、回答は後日、盛岡農業高校にフィードバックしました。「純情体操」は生徒会を始め、多くの盛農生や来場者が一緒に踊り、盛岡農業高校の温かさを改めて実感するステージとなりました。

来年、盛岡農業高校は創立140周年を迎えます。岩手県の農業を支える、若くて強いパワーにぜひ注目ください。JA全農いわては今後も若い力を支援していきます。



「純情体操」を2018いわて純情むすめと盛農の生徒会メンバーが披露。

